

第19回災害科学国際研究所「災害と健康」学際研究推進セミナーを開催しました (2019/01/29)

テーマ：「慰霊祭・追悼式の社会学 ―津波記念行事にみられる災禍との向き合い方―」
場所：東北大学医学部6号館1階カンファレンス室（宮城県仙台市）

2019年1月29日、第19回災害科学国際研究所「災害と健康」学際研究推進セミナーが開催され、東北大学東北アジア研究センター災害人文学研究ユニット（災害科学研究拠点兼務）の福田雄 助教に「慰霊祭・追悼式の社会学 ―津波記念行事にみられる災禍との向き合い方―」と題するご講演をいただきました。

福田助教は、はじめに災禍とは何かを定義したうえで、インドネシア・アチェ特別州と宮城県石巻市という二つの津波被災地における災禍との向き合い方を比較考察いただきました。スマトラ島沖地震（2004年）の被害にあったインドネシア・アチェ特別州の特徴を踏まえたうえで、震災後毎年行われている記念行事について説明いただきました。インドネシアで唯一イスラーム法を自治法とする特別州であるアチェにおいて、記念式典の講話では津波の神義論が認められるとの報告がなされました。

また日本における災禍をめぐる記念式典として、東日本大震災の大きな被害を受けた宮城県石巻市の慰霊祭・追悼式が紹介されました。「無宗教式」の儀礼によって構成される記念行事におけるスピーチについて紹介し、インドネシアと日本における災禍をめぐる記念式典を比較対照されました。

発表後、活発な質疑応答が行われ、多くの分野の方々と有意義な議論を交わす場となりました。



福田 雄先生



会場の様子

文責：奥山純子（災害と健康ユニット）